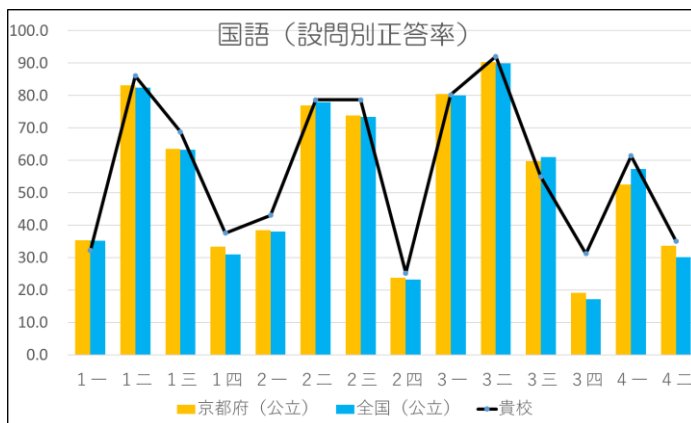
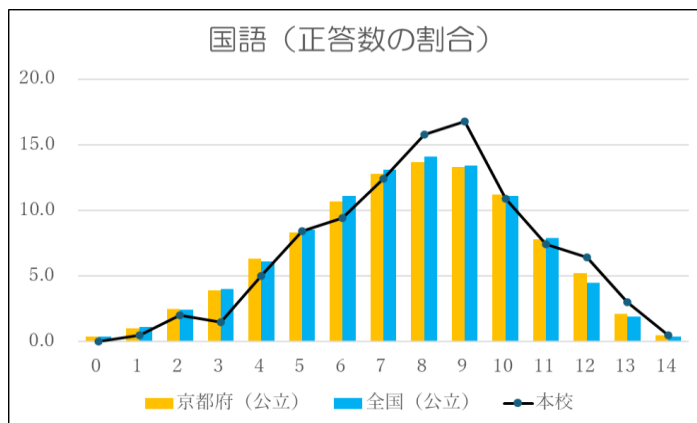


【国語】



全国平均を上回る好成績でした。思考・判断・表現の「読むこと」についての問題は、全国平均より、約14ポイント上回っています。「書くこと」「話すこと・聞くこと」についても、全市平均より上回っています。しかし、基本的な知識を問われている問題は、全国平均よりも約5ポイントも下回っています。言葉の特徴や使い方に関する事項が苦手であることがわかりました。普段の言葉づかい見直すことや、正しい言葉の意味を知ること。そして正しい言葉を扱う癖を、国語の授業以外の場面でも意識して生活していくことが大切です。

▼正答率が全国平均を下回った設問

3(三) 「しきりと」の意味として適切なものを選択する。

【出題の趣旨】…事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる。

1(一) 変換した漢字として適切なものを選択する(かいしん)。

【出題の趣旨】…文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる。

●正答率が全国平均を大きく上回った設問

3(四) 「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそうように考えた理由を書く。

【出題の趣旨】…文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる。

4(一) 手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する。

【出題の趣旨】…読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。

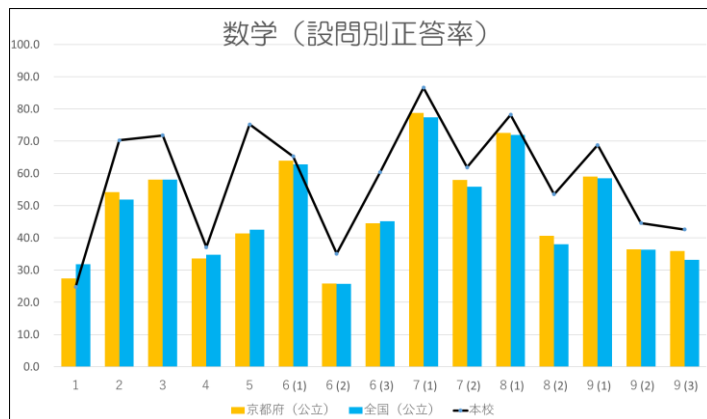
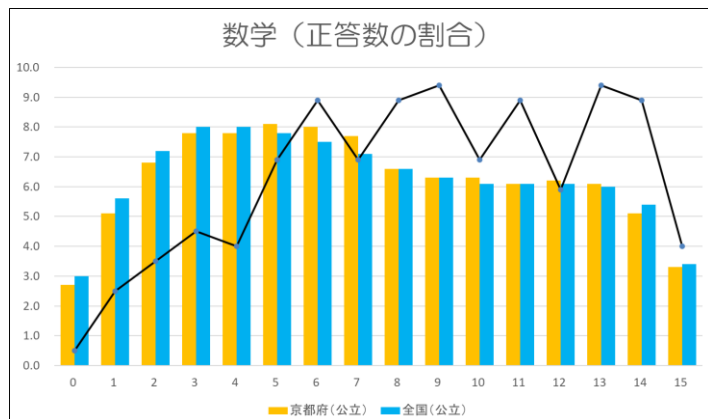
1(三) ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する。

【出題の趣旨】…書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。

2(三) 「話の順序を入れ替えた方がよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する

【出題の趣旨】…自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することができるかどうかをみる。

【数学】



ほとんどの設問で正答率が全国平均を上回っています。特にデータの活用領域の正答率が高くなっています。記述式（説明など）の問題でも全国平均を大きく上回る結果でした。しかし、一桁の素数を選ぶ問題では、全国平均を下回りました。「なぜ」を説明できる力がついてきているので、見落としがちな基本の知識、用語の意味も丁寧に確認しながら学習を進めていきましょう。

▼正答率が全国平均を下回った設問

- 1 1から9までの数の中から素数を全て選ぶ。

【出題の趣旨】…素数の意味や概念を理解しているかどうかをみる。

●正答率が全国平均を大きく上回った設問

- 2 果汁40%の飲み物 a mLに含まれる果汁の量を、 a を用いた式で表す。

【出題の趣旨】…数量を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる。

- 3 $\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める。

【出題の趣旨】…多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる。

- 5 ある学級の生徒40人のハンドボール投げの記録をまとめた度数分布表から、20m以上25m未満の階級の相対度数を求める。

【出題の趣旨】…相対度数の意味を理解しているかどうかをみる。

- 6(3) 連続する三つの3の倍数の和が、9の倍数になることの説明を完成する。

【出題の趣旨】…目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる。

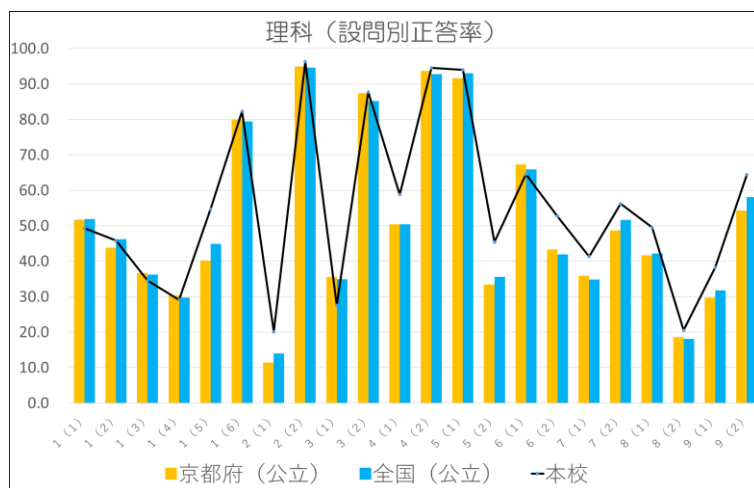
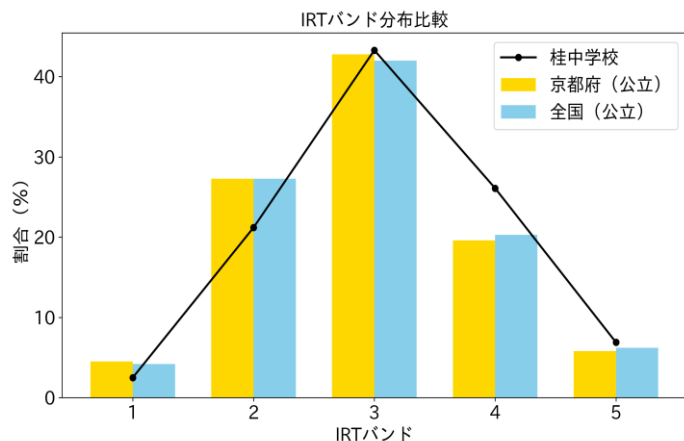
- 8(2) A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。

【出題の趣旨】…事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

- 9(1) 四角形AECFが平行四辺形であることの証明を振り返り、新たに分かることを選ぶ。

【出題の趣旨】…証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる。

【理科】



今年度、理科ではIRTバンドという指標を用いて結果が示されました。受験者の理解度を、「バンド（帯）」で分類しています。バンドの数値が上がるごとに理解度が高いと捉えてください。今回は生徒の理解度が5段階で分類されており、バンド3以上の生徒が約 76%を占め、全国平均よりも高い割合で標準的～高度な理解を示しています。理科に対する基礎的な力がしっかり育まれていることを示しており、今後の学習にも期待がもてます。

一方で、現在の「仮説が正しい場合の実験結果の予想を選択する問題」において、生徒が仮説と実験結果の因果関係を十分に理解しないまま、表面的な選択に終始してしまう傾向が見られました。特に、選択肢の中に一見正しそうな結果が含まれている場合、仮説との整合性を検討せずに選んでしまうケースが多く、科学的思考力の育成という観点から課題があると考えられます。

▼正答率が全国平均を下回った設問

3 (5) 設定した【仮説】が正しい場合の実験結果の予想を選択する

【出題の趣旨】…仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想することができるかどうかをみる

●正答率が全国平均を大きく上回った設問

1 (5) 塩素の元素記号を記述する

【出題の趣旨】…塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる

2 (1) 【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する

【出題の趣旨】…【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できるかどうかをみる

5 (2) 実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す

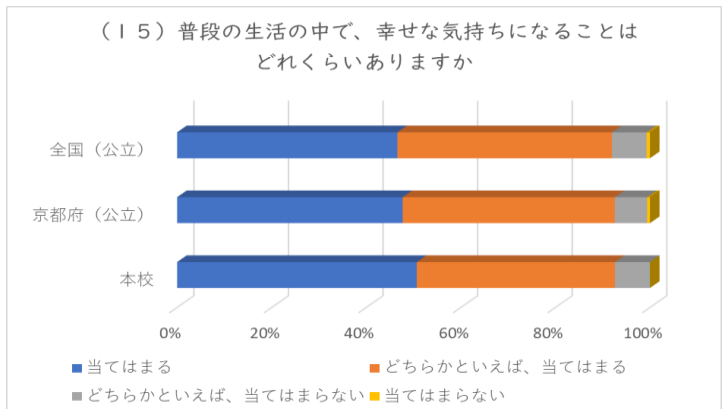
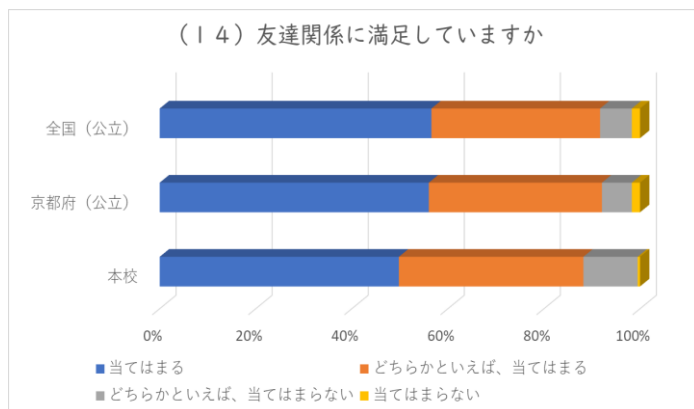
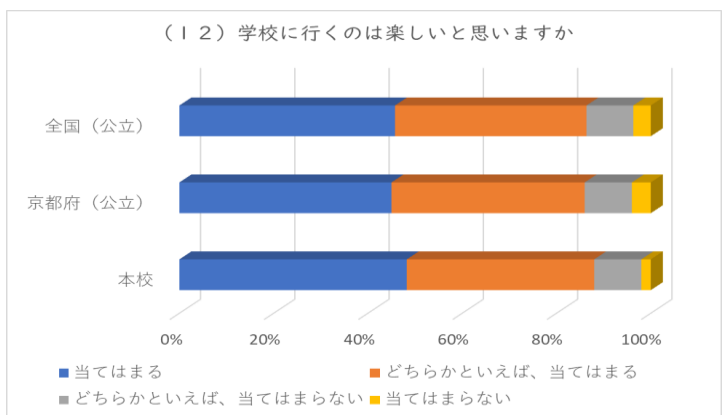
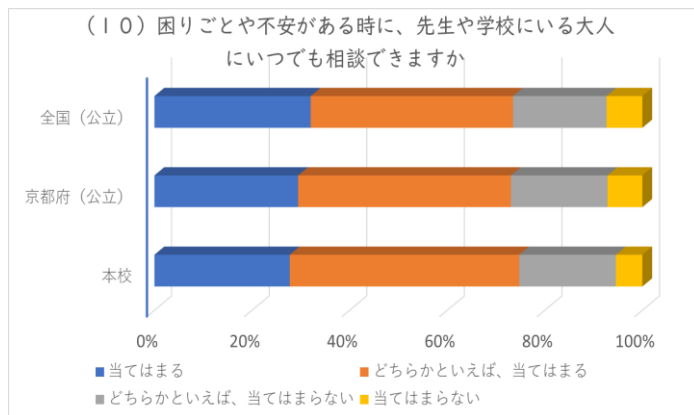
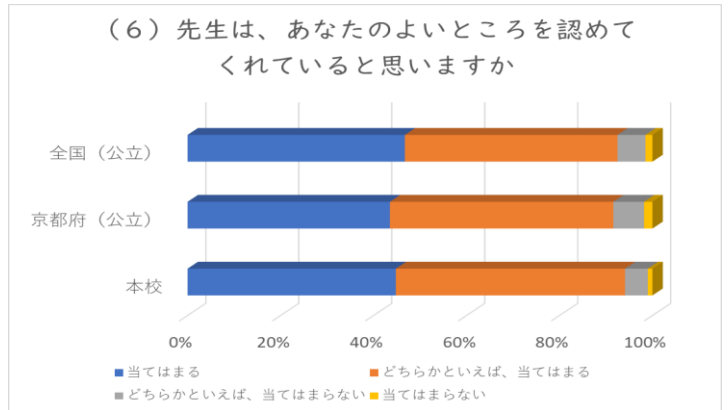
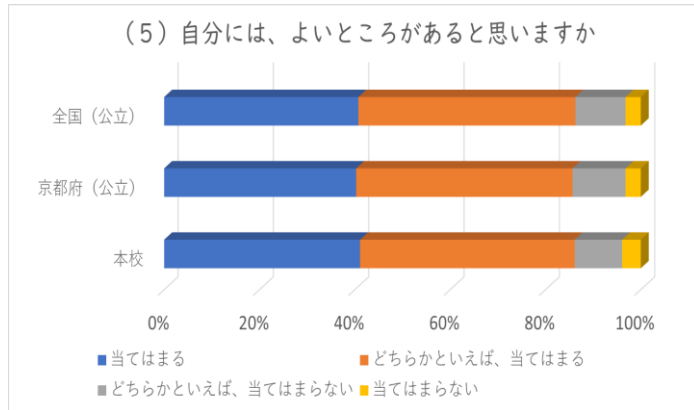
【出題の趣旨】…化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる

6 (2) 牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する

【出題の趣旨】…スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できるかどうかをみる

【生徒質問紙より】

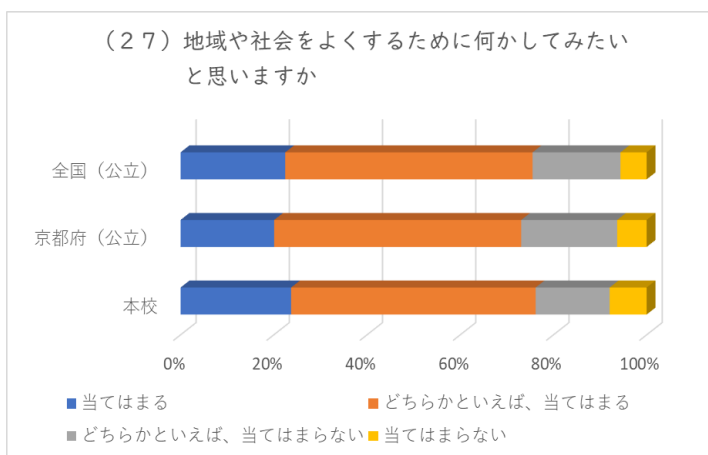
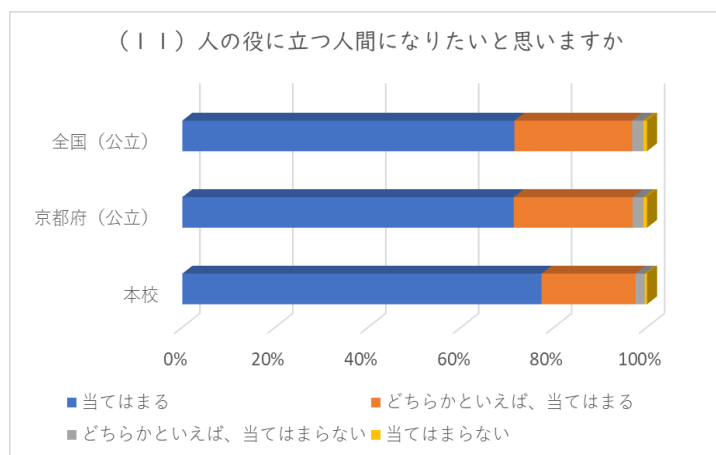
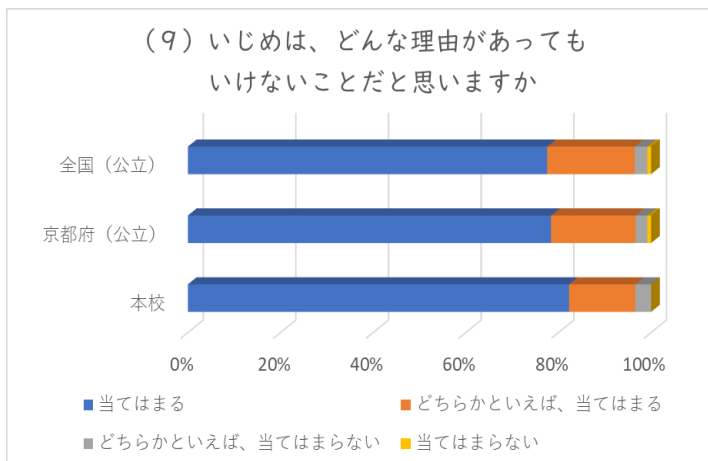
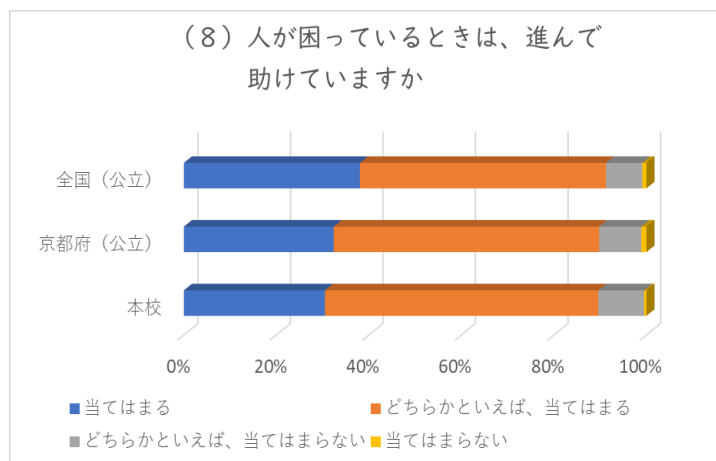
自己有用感（「自分の存在や行動が誰かの役に立っている」「社会に貢献している」という実感）に関するアンケート項目の結果です。



自分のよいところを自覚している人が非常に多くいます。先生がそれを認めてくれているという実感もあります。お互いのよいところを見つけ、相手に伝えるという関係性が、幸福感を高めることになりそうです。

(10)の「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」という項目について、全国や京都府と大きく変わるわけではありませんが、20%以上の生徒が相談しにくいと感じているようです。生徒だけでなく、教職員からもよいところを見つけ、伝えられる関係性を構築できるよう、心がけていきたいと思います。

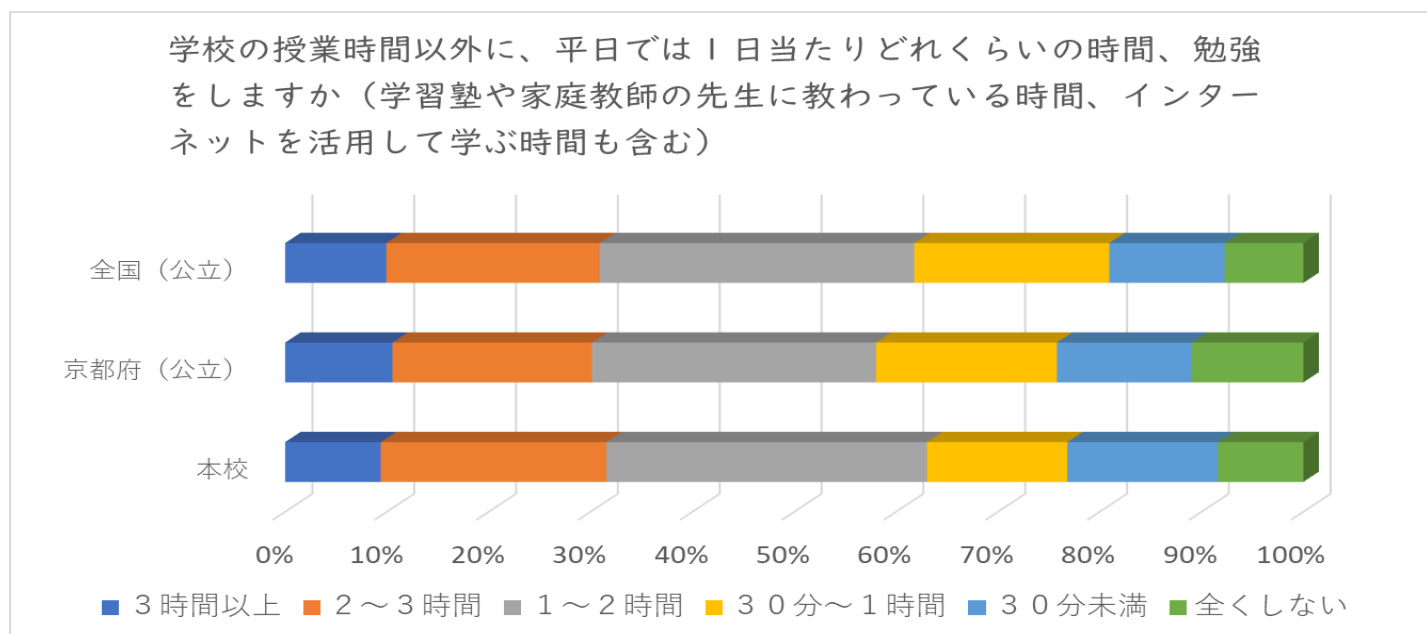
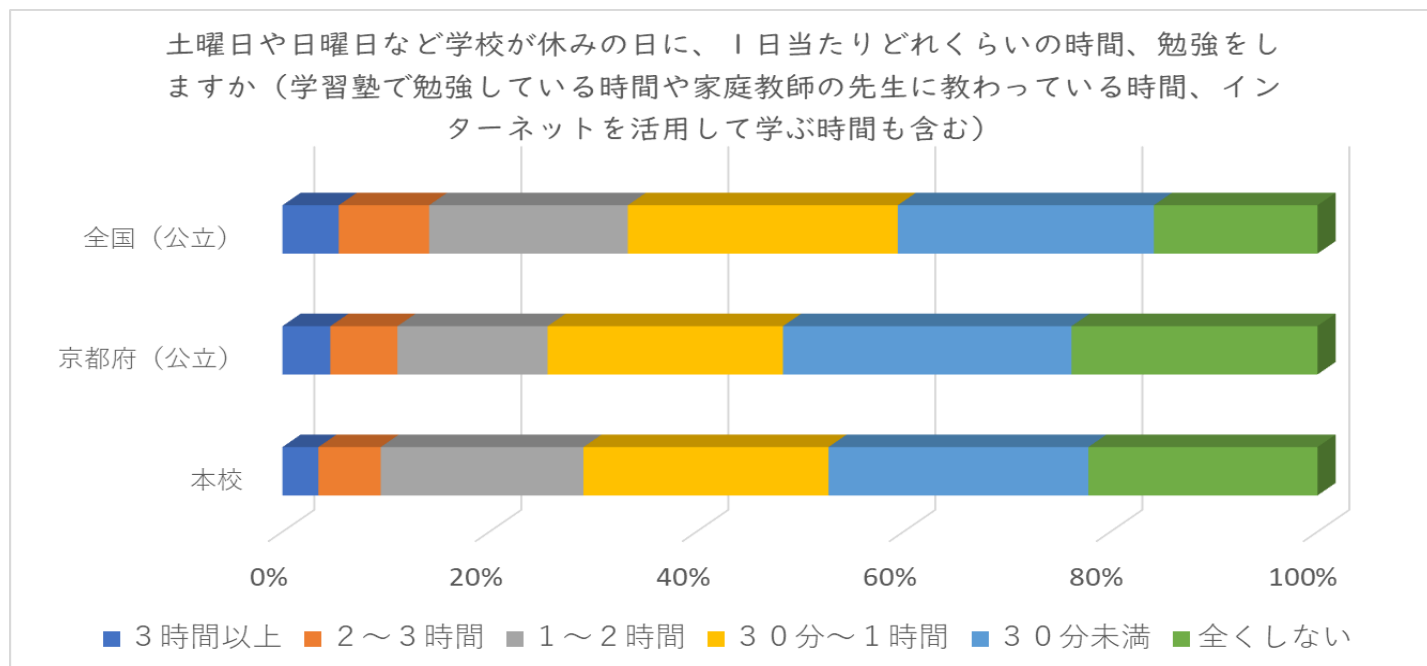
向社会性（他者や社会に対して積極的に関わり、役立とうとする傾向や態度）に関するアンケート項目の結果です。



人の役に立ちたいと思う人が多くいますが、まだ自分から進んで人を助けるという行動につながっている人は割合としては多くないようです。行動に移すということには一定のハードルがあるようです。行動したことそのものが認められるという環境が必要なのかもしれません。失敗した（思うような結果が出なかった）ときでも、正しい思いからの行動であれば、胸を張っていいと思います。

また、地域や社会をよくしたいという思いを持つ人が80%近くいます。身近な人を助けることから、少しずつ関心の輪が広がり、行動力につなげていってもらいたいですね。

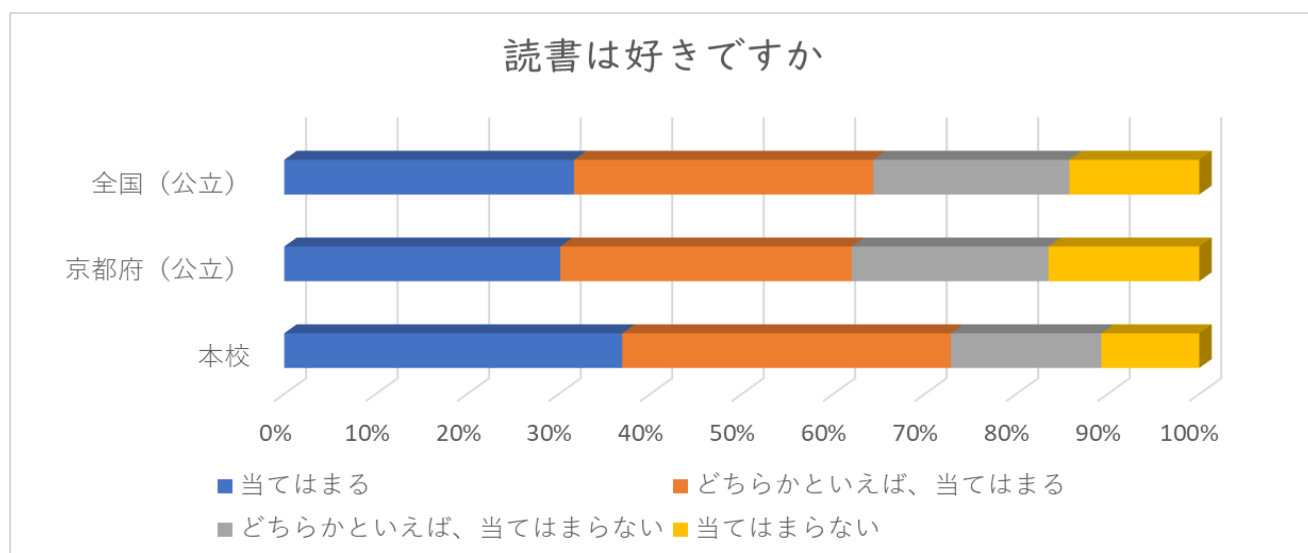
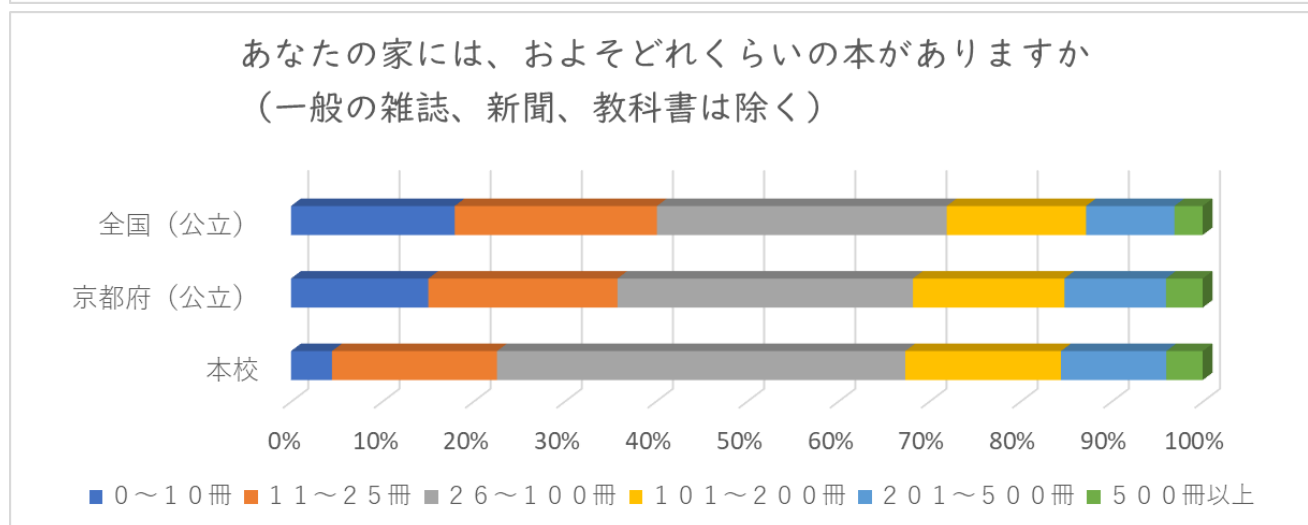
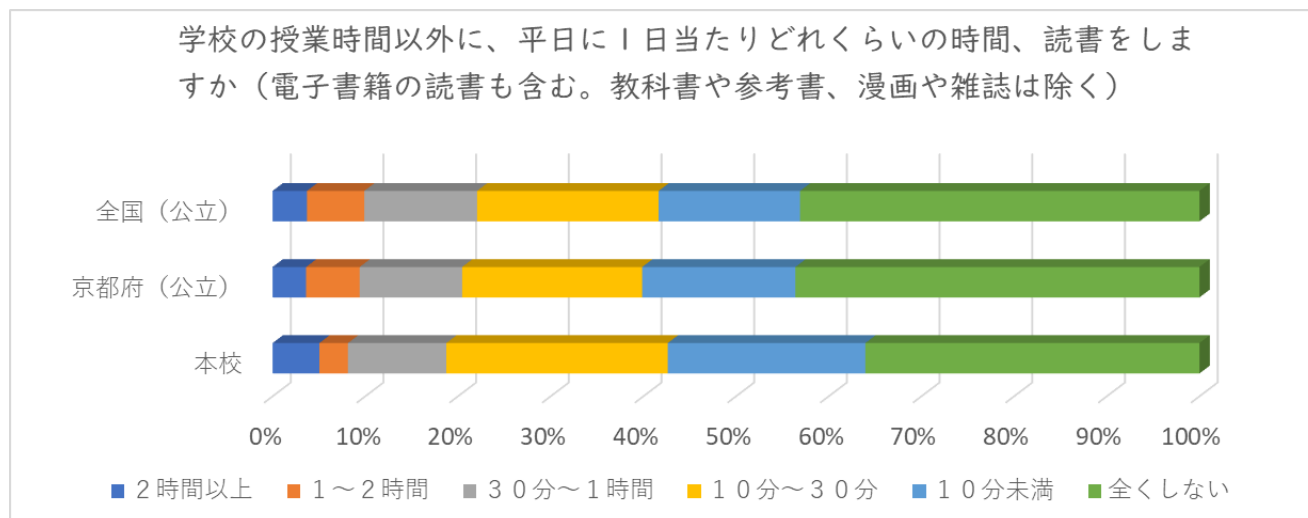
学習習慣（学校以外での学習）に関するアンケート項目の結果です。



平日でも１時間以上勉強をしている人は約60%となっています。平日に比べて土日などの休日に勉強時間が少なくなっています。本校では部活動を頑張っている人が多いことが1つの要因ではないかと考えられます。（調査時点では3年生も部活動に所属していた人がたくさんいました）

平日に１時間以上の学習時間を確保できている人が多いです。これは学習が習慣化できている人が多いということです。習慣化するということは、自分の生活の一部にすることです。勉強時間を全く取れていない人は、習慣化への第一歩として、まずは10分程度の授業の復習から始めてみてはどうでしょうか。

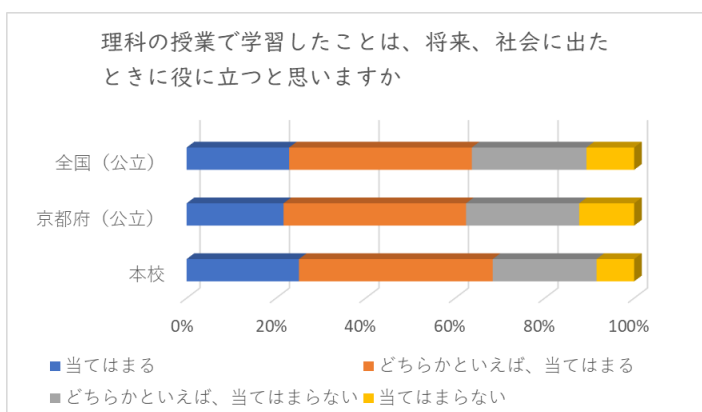
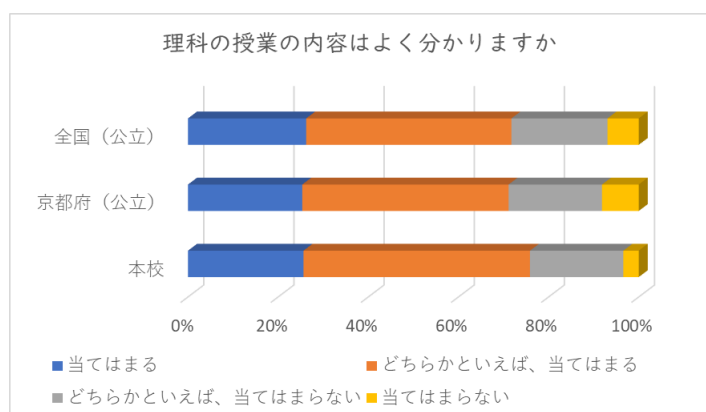
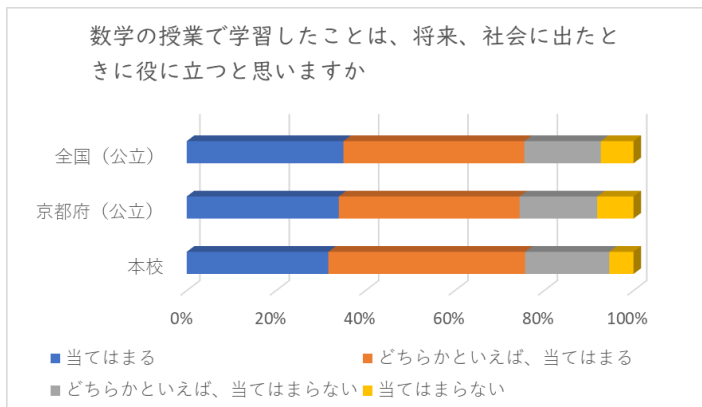
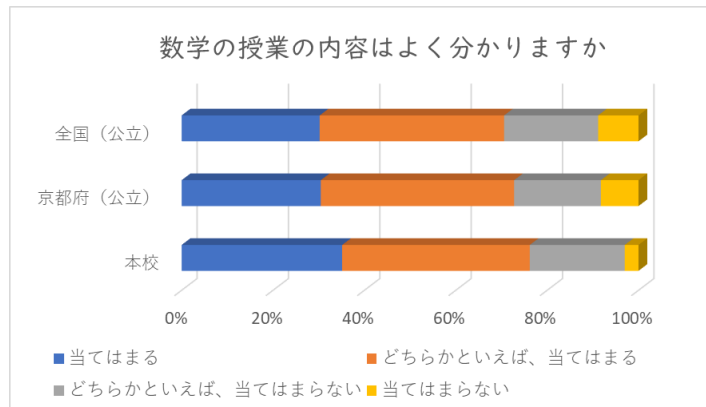
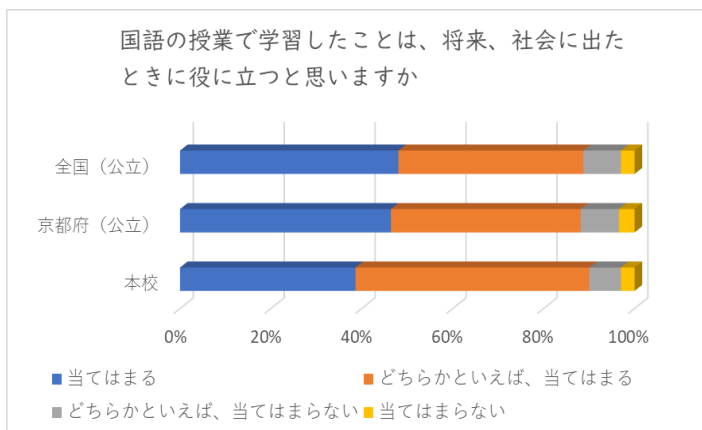
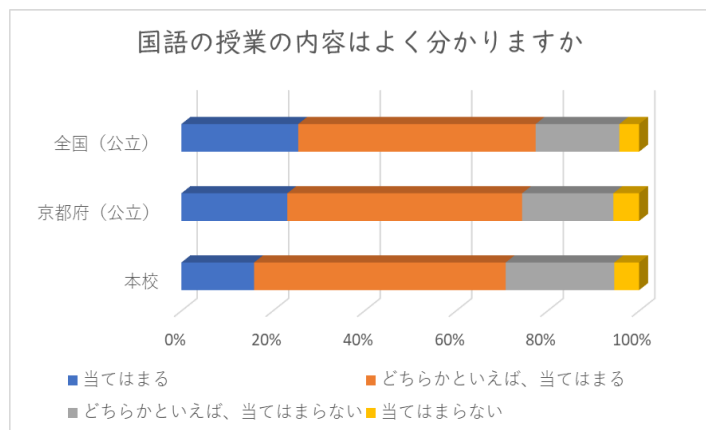
読書に関するアンケート項目の結果です。



本校では登校後に朝読書の時間が10分間設定されています。ほとんどの生徒は落ち着いて読書に取り組んでおり、それぞれの好きな世界を堪能しているように見られます。「読書が好き」と答えた人の割合は昨年度から大きく増えています。（当てはまる・どちらかといえば、当てはまる と答えた人が R6年度:60%弱→R7年度:70%強）

読書には、自分自身の感性を深めたり、先人から知識を得たりして、想像力が豊かになり創造性を高めるような効果もあります。語彙力の獲得や論理的な思考を自然と行うなど、学力との関係も小さくありません。読書は、将来の自分への投資とも言われます。朝読書の続きを少しだけ、家庭でも読んでみてはどうでしょうか。

教科に関するアンケート項目の結果です。



今回の調査対象の3教科に対して、「授業の内容がよくわかる」に対するポジティブな回答をした人は60%以上になっています。また、将来、社会に出たときに役に立つと感じている人も60%以上であり、国語は特に高くなっています。

何のために学ぶのか、今の学習が何（どんな力）につながっていくのかを理解するようになれば、興味・関心が向きやすくなります。何より、「学問としての」知識と「社会で生きていくために必要な」知識がつながれば、今の学習にどのような価値があるのかわかるようになります。そして、それがより深い理解につながっていきます。

授業者は「なぜ、この教科を学ぶのか」を語ってほしいと思います。生徒のみなさんも、先生たちのそんな話にも耳を傾けてください。